IT Solution

アサヒグループホールディングス株式会社

高品質なコンバージョンツールで脱ホストに成功。グループ経営に資するIT共通基盤を実現した。

2011年に純粋持株会社に移行したアサヒグループホールディングス株式会社は、アサヒグループの司令塔として、グループ経営に資するITの実現に向けて中長期的な計画を定めた。グループ内のITリソースを集約し、IT共通基盤の整備を進めるなかで、大きな課題となったのがACOS-4のホストシステムだった。ほぼ半世紀にわたり、基幹業務を担ってきたシステムだが、運用コストも高く、早急にオープンシステムへの移行が望まれた。長年対症療法を重ねて複雑化したシステムを、品質・コスト・納期を満たしてマイグレーションするのは極めて困難なものに思えたが、キヤノンITソリューションズがそれを可能にした。

お客様が実現できたこと

- ☑ 競争力あるグループ経営に資する、グループ内のIT共通基盤を整備できた。
- ☑ レガシーなホストシステムから脱してオープンシステムに移行した。
- ☑ 高品質でコストパフォーマンスの高いマイグレーションを、スケジュール通りに完了できた。

▶ お客様プロファイル

Asahi

社　　名：アサヒグループホールディングス株式会社
U　R　L：www.asahigroup-holdings.com/

住　　所：東京都墨田区吾妻橋1-23-1

設　　立：1949年9月1日
従業員数：273名(2015年12月現在)
事業内容：グループの経営戦略・経営管理

1889年設立の大阪麦酒会社をルーツとするアサヒグループは、数多くの人気ブランドやヒット製品で親しまれている酒類事業や飲料事業の他、菓子や健康食品等の食品事業、そして海外事業など、多彩なビジネスドメインで活躍しています。

アサヒグループホールディングス株式会社は、グループの司令塔として経営理念に基づいたグループ全体のビジョンを描き、経営計画の策定と遂行にあたっています。

アサヒグループの主な事業
- 酒類事業
- 飲料事業
- 食品事業
- 国際事業
- その他事業（機能性食品・飼料）

お客様の声

アサヒグループホールディングス
株式会社
IT部門
ゼネラルマネジャー
知久　龍人　様

「競争力をもたらす共通基盤が整備できた」

「私たちが与えられたミッションは、過去30年間に蓄積された非効率なシステムを全て廃止し、必要なものだけを共通基盤に集約することで、グループ経営に最適化されたITを実現することでした。その一貫が脱ホストであり、マイグレーションが必要不可欠だったのです。

キヤノンITソリューションズのマイグレーションには、コンバージョンツールの秀逸さ、私たちの状況に合わせて臨機応変に対応できる柔軟性、そしてそれらを可能とする高度なノウハウを感じました」

お客様のご要望

- **グループ内のIT共通基盤を整備し、競争力あるグループ経営を実現したい。**
- **複雑化したホストシステムの非効率性と過大な運用コストを解決したい。**
- **品質とコスト、納期で妥協せずに、オープンシステムへのマイグレーションを実現したい。**

課題 導入前の課題と背景

IT資産をグループ経営に最適化したい

半世紀にわたりホストシステムを使ってこられました

「アサヒグループはM&A等による事業多様化を積極的に進めるなかで、情報システムもグループ経営に最適化することが必要でした。そこで第４～５次中期計画の６年をかけて、グループ内のIT資産を集約し、各社のシステムを共通IT基盤に統合したのです。その計画の後半で取り組んだのが、脱ホストでした。1966年からホストシステムで基幹系システムを運用し、近年構築された業務系オープンシステムはこのホストに連携させてきました。しかしオープンシステムから入力されたデータはホストシステムがバッチで処理するため、ホストシステムが止まれば全ての業務に支障が出る上、情報連携に弱く、オープンシステムの本来のメリットが活かされていませんでした。加えて、ホストシステムの保守に多額の費用がかかることや、システム全体像と詳細を理解するスタッフの不在など、保守・運用に関わる課題も深刻だったのです」

必然 導入の必然性

コストと工数を抑えてマイグレーションしたい

脱ホストの難しさはどこにありましたか

「導入時期や仕様が異なる各事業会社のIT資産は膨大ですから、共通IT基盤の構築には、中長期的な取り組みが必要です。段階的にリプレイスを行い、そこで得られたコストダウン分を原資にして、次のステップに進むことで、コストダウン効果を出しながらゴールを目指しました。脱ホストについても費用対効果を考えると、スクラッチで新規開発するにはためらいがあり、数社からマイグレーションを提案してもらいました。しかしながらそれらの提案は作り込みの度合が高く、コストや納期要求を満たしませんでした。そこにキヤノンITソリューションズから他とは異なるコンバージョンツールを活用した提案があったのです」

工夫 運用の工夫
変換のコストと品質がポイント

マイグレーション対象となった資産とは？

アサヒプロマネジメント株式会社
業務システム部担当副部長
基幹グループ
北尾　吉史　様

「ACOS-4 で稼働するホストシステムには、COBOL、HPL など 2,700 本以上ものプログラム資産、約 1,200 の JCL、多数の画面や帳票、そして 2,000 近くのデータファイルがありました。 MASP という独自のコンパイル言語が存在したり、オープンシステムとの特殊な通信の仕組みがあるなど、規模が大きく複雑な仕組みを、Windows Server のオープンシステムにマイグレーションするには、一般的にはかなりの工数を要します。基幹系システムなので、移行に伴う長期間の資産凍結は是非とも避けねばなりません。そうした課題をキヤノン IT ソリューションズが解決してくれたのです」

その提案は他社とどこが違いましたか

「他社の提案では、まず既存システムを解析し、ソースコンバージョンを実施、パイロットテストにより既存のシステムによるアウトプットと異なるものを見つけて、あとはほぼ手作業でプログラムを個別修正し、単体テストを実施、それを繰り返してからやっと統合テストというのがマイグレーションの流れです。

それに対して、キヤノン IT ソリューションズのマイグレーションは既存システムに合わせて事前にカスタマイズした独自のコンバージョンツールを用いることで、手作業による修正を極小化するというものでした。パイロットテストでコンバージョンの精度が高まれば、あとは一気に変換するスタイルなので資産凍結も短期間で済みます。ソースコードに属人性が発生することを避けるために予めコーディングルールを定めるといった手間もありません」

成果 取り組みの成果
マイグレーションの高度なノウハウ

具体的にはどのように進めたのでしょうか

「当社から提供したソースコードを使って、キヤノン IT ソリューションズが分析・要件確認後、移行方式を設計し、既存のシステムに合わせてコンバージョンツールをカスタマイズしました。そこからパイロットテストとツール修正を繰返し、十分な変換精度が得られたところで、重要ジョブの単体テストを行って、既存システムと同じアウトプットが得られることを確認しました。

コンバージョンツール以外でも、キヤノン IT ソリューションズには助けられました。旧システムでは、オープンシステムのサーバーと ACOS-4 の通信に、特殊なミドルウェアを使っていたのですが、Winodws2008 で動く代替製品が無いため新規に開発してもらいました。開発にあたっては、通信先の本番環境を使用する訳にもいかないので、電文やプロトコルを解析し、本番と同じ電文を投入するシミュレータを作ることで綿密なテストが可能になりました。こうしたことは他社ではなかなかできないことではないでしょうか。

単体テスト後の外部との連携チェックや負荷テスト、およびインフラ構築は当社で行いました」

マイグレーションの品質をどう評価されますか

「総合テストでは、一ヶ月分のデータを使って、実際に日次処理を回し、新システムから出力される月次決算のアウトプットが実データと合致するか確認しました。結果は見事に一致し、変換品質の高さを証明することになりました。その結果、当初のスケジュール通りにカットオーバーすることができました。

稼働後も順調でユーザーからのクレームなどはありません。画面や帳票類も以前のシステムにかなり忠実に再現されたので、システムが変わったことに気が付かないユーザーも多いでしょう。

また COBOL のソースコードは、ほとんどそのまま継承することができたので、保守性は劣化しておらず、デバッグトレース機能の充実などもあり、むしろ以前よりも改善されています」

将来の展望
技術力に期待

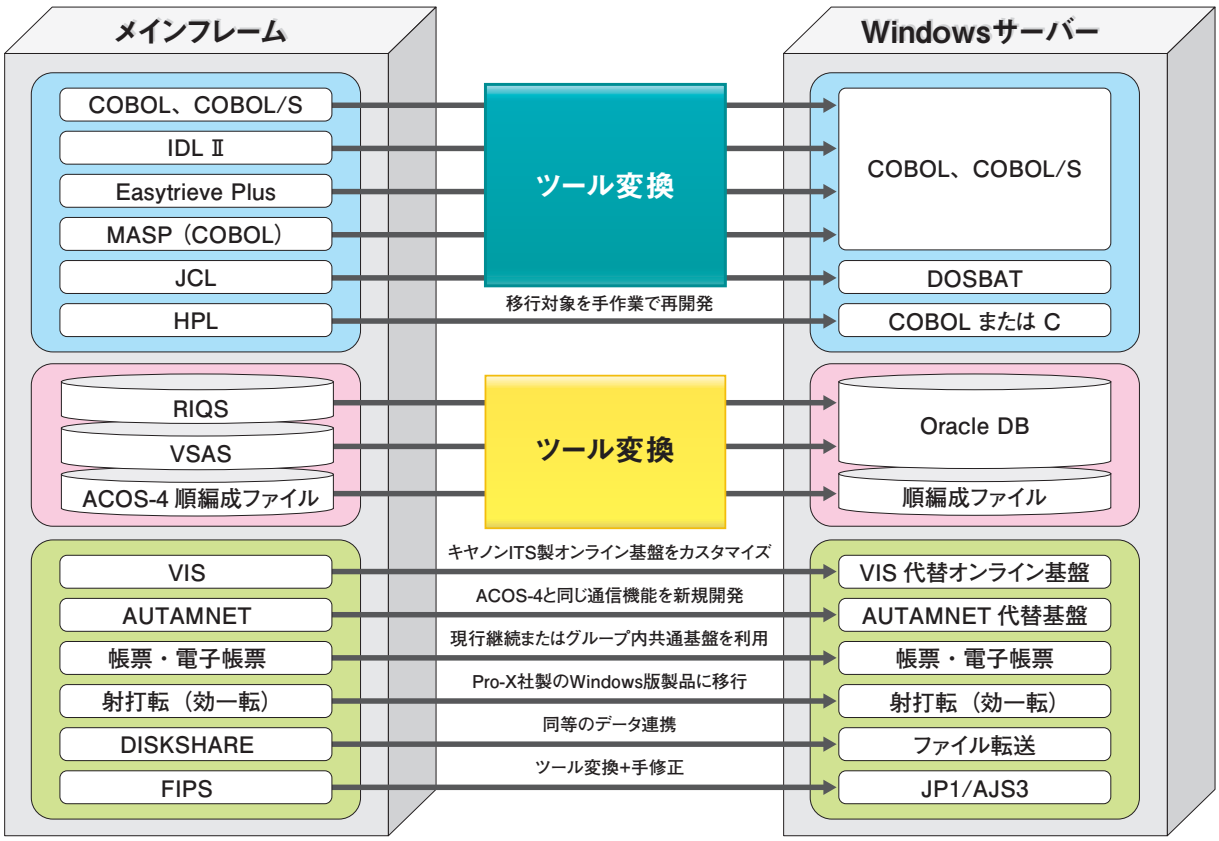
今後の展望についてお聞かせください。

「アサヒグループは、収益構造改革、ビジネスモデルの進化等を通じて、さらなる企業価値の向上に取組んでいます。脱ホストプロジェクトは終了しましたが、それ以外にもキヤノン IT ソリューションズに依頼しているプロジェクトは少なくありません。

今回証明してもらった技術力の高さを活かして、引き続き最大限の協力を期待しています」

オープン系システムへの移行イメージ

メインフレームから Windows サーバーへの変換の全体像



マイグレーション

徹底したツール化と自動化により、手作業のリスクを可能な限り削減。新旧システム間のプログラム／データのコンバージョンを高品質かつ高効率に実現するソリューション。

キヤノン IT ソリューションズ　マイグレーション　ホームページ
www.canon-its.co.jp/solution/migration/

キヤノンITソリューションズ株式会社
マイグレーション担当窓口　TEL（03）5730-7178

Canon キヤノン IT ソリューションズ株式会社

〒140-8526　東京都品川区東品川2-4-11　野村不動産天王洲ビル

Copyright@1999-2016 Canon IT Solutions Inc. All rights reserved